

日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学社会貢献分科会（第26期・第3回）議事要旨

日 時：令和6年6月19日（水）10：00～12：00

会 場：オンライン会議（主催会場：東京大学）

出席者：佐竹健治、森口祐一、藪田ひかる、稲葉俊哉、臼田裕一郎、江守正多、大久保泰邦、片岡香子、唐沢かおり、川口慎介、川幡穂高、標葉隆馬、鈴木康弘、関村直人、谷本浩志、新野宏、藤井良一、益田晴恵、谷田貝亜紀代、山岡耕春、山口紀子、山本佳世子、横山広美、渡邊誠一郎

記 録：片岡香子、谷本浩志

議 題：（1）放射性物質拡散予測の利活用（前期の見解）の発展
（2）危機における学術からの情報発信の仕組みに関して
（3）その他

配布資料

資料1：地球惑星科学社会貢献分科会（第26期・第1回）議事要旨

資料2：地球惑星科学社会貢献分科会（第26期・第1回）議事録案

資料3：地球惑星科学社会貢献分科会（第26期・第2回）議事要旨

資料4：地球惑星科学社会貢献分科会 委員名簿

資料5：第25期見解「より強靱な原子力災害対策に向けたアカデミアからの提案—放射性物質拡散予測の積極的な利活用を推進すべき時期に来たと考えます」

資料6：参議院東日本大震災復興特別委員会（2024年5月17日）における質疑一部の非公式議事録

議事

1. 放射性物質拡散予測の利活用（前期の見解）の発展

(a) 拡散予測シミュレーションの説明（新野委員）

新野委員より数値モデルを用いた放射性物質の拡散予測シミュレーションの説明があり、その後、質疑応答並びに意見交換を行った。

(b) 原子力安全分野からのコメント（森口委員）

森口委員より第25期の「見解」を踏まえた拡散モデルの原子力防災への活用可能性の説明があり、その後、質疑応答並びに意見交換を行った。

2. 危機における学術からの情報発信の仕組みに関して

—令和6年能登半島地震の経験と教訓—

(a) 津波・活断層についての事前の予測（佐竹委員長）

佐竹委員長より、今年1月に発生した能登半島地震の津波・活断層についての説明があり、その後、質疑応答と意見交換を行った。

(b) 災害の現場から（片岡委員）

片岡委員が、能登半島地震による新潟市の広域液状化災害について紹介し、その後、質疑応答と意見交換を行った。

(c) 災害情報について（山本委員）

山本委員が、能登半島で利活用された情報通信技術について紹介し、その後、質疑応答と意見交換を行った。

3. その他

(a) 前回議事要旨及び委員名簿の確認

佐竹委員長より、配付資料に基づき、前々回及び前回議事要旨の確認、その後、委員名簿の確認がなされた。

(b) 今後の議論のすすめ方について

佐竹委員長から、次回会議は秋頃に、遅くとも年内に開催したいこと、また、意見等あれば、委員長、副委員長、幹事宛てに送るようにとの説明がなされた。